

目 次

I	学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
①	学生確保の見通し	1
ア)	定員充足の見込み	1
(1)	入学定員及び収容定員	1
(2)	入学定員の設定の考え方	1
(3)	実績及びアンケート調査を踏まえた 入学者数の見込み(まとめ)	2
イ)	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	3
(1)	岐阜連獣及び山口連獣における入学者の実績	3
(2)	アンケート調査の実施	5
(2-1)	在学生へのアンケート調査の結果	6
(2-2)	大学院生へのアンケート調査の結果	11
(2-3)	社会人に対するアンケート調査の結果	15
ウ)	学生納付金設定の考え方	22
②	学生確保に向けた具体的な取組状況	22
(1)	学生の確保	22
II	人材需要の動向等社会の要請	23
①	人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(概要)	23
②	上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえた ものであることの客観的な根拠	23
ア)	人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠	23
(1)	人材需要の動向と社会の要請(まとめ)	23
(2)	人材の養成に関する社会的な要請	25
(3-1)	岐阜連獣及び山口連獣における修了者の実績	29
(3-2)	岐阜連獣及び山口連獣における修了者の 主な就職先(職域別)	29
(3-3)	岐阜連獣及び山口連獣における修了者の 主な就職先(プログラム関連分野別)	30
III	資料	31

学生確保の見通し等を記載した書類

I 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生確保の見通し

ア) 定員充足の見込み

(1) 入学定員及び収容定員

共同獣医学研究科における、入学定員は岐阜大学6人、鳥取大学5人、収容定員は全体で44人と設定した(表1)。

表1：入学定員及び収容定員 (単位：人)

大 学 名	定 員	
	入学定員	収容定員
岐阜大学	6	24
鳥取大学	5	20
計	11	44

(2) 入学定員の設定の考え方

共同獣医学研究科の入学定員は、これまでの岐阜大学大学院連合獣医学研究科(以下「岐阜連獣」という。)における岐阜大学、山口大学大学院連合獣医学研究科(以下「山口連獣」という。)における鳥取大学を配置校とする入学の実績及びアンケート調査の結果を分析するとともに、社会のニーズ・動向を踏まえ、次のように設定した。(詳細は、(3)アンケート調査等を踏まえた見込み(まとめ)に記載)

岐阜大学は、日本人学生の入学を3人、留学生の入学を2人、社会人学生の入学を1人と想定し、入学定員を6人に設定する。

鳥取大学は、日本人学生の入学を3人、留学生の入学を1人、社会人学生の入学を1人と想定し、入学定員を5人に設定する。

(3) 実績及びアンケート調査等を踏まえた入学者数の見込み（まとめ）

連獣の実績として、岐阜連獣のうち、岐阜大学を配置校とする過去6年間の平均入学者数は6.7人であった。山口連獣のうち、鳥取大学を配置校とする過去6年間の平均入学者数は4.3人であった。今回のアンケート調査等の分析で、この数値に加えて新規に入学者を見込めることが分かった。

新規増加見込み分として、日本人学生（社会人を除く母校からの進学者）は、岐阜大学 3.9人、鳥取大学 3.0人の増加が見込まれる。社会人は、岐阜大学大学院あるいは鳥取大学大学院に進学したい者が10年間で進学するものとして、それぞれ10で除した値から各連獣の社会人入学者の実績値を差し引いた結果、岐阜大学 1.1人の増加、鳥取大学 0.8人の減少が見込まれる。日本人学生と社会人を合わせると、岐阜大学 5.0人、鳥取大学 2.2人の新規増加が見込まれる。

以上のことから、本共同獣医学研究科に対するニーズは、岐阜連獣と山口連獣の実績及び新規増加見込みを合計すると、岐阜大学 11.7人、鳥取大学 6.5人、両大学で 18.2人となり、少なくとも岐阜大学 6人、鳥取大学 5人、合計 11人の入学定員が必要である（表2）。

なお、志願倍率は 1.65 倍となり（18.2/11）、両大学いずれも適切な選抜を行い、質を担保しつつ恒常的に入学定員を確保することが可能である。

表 2 : 入学者数の見込み

(単位:人)

区 分		岐阜大学	鳥取大学	2 大学計	算出根拠	
岐阜連獣・ 山口連獣 実績 (6年間平均)	日本人学生 (社会人除く)	4.2	1.8	6.0	実績	表 3
	留学生	2.0	0.8	2.8		表 4
	社会人学生	0.5	1.7	2.2		
小 計		6.7	4.3	11.0		
新規増加 見込み	日本人学生 (社会人除く)	3.9	3.0	6.9	アンケート	表 1 5
	社会人学生※	1.1	-0.8	0.3		表 3 7
小 計		5.0	2.2	7.2		
連獣実績と 新規増加 見込み	日本人学生 (社会人除く)	8.1	4.8	12.9	実績 + アンケート	/
	留学生	2.0	0.8	2.8		
	社会人学生	1.6	0.9	2.5		
合 計		11.7	6.5	18.2		

※ 1年あたりの新規社会人見込者数は、岐阜大学大学院あるいは鳥取大学大学院に進学した
い者(それぞれ 16 名及び 9 名)が 10 年間で進学するものとして、それぞれ 10 で除した値から、
岐阜連獣、山口連獣の社会人入学者の実績値(6 年平均値として岐阜大学 0.5 人、鳥取大学 1.7
人、表 4)を差し引いた数値である。

イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(1) 岐阜連獣及び山口連獣における入学者の実績

入学定員の設定に当たり、岐阜連獣における岐阜大学及び山口連獣における鳥取大学に配置
される入学者数の分析を行った。

獣医学科の修業年限は 6 年間であることから、実績を分析するに当たって平成 24 年度から 29
年度(6 年間)の動向を踏まえた。過去 6 年間における各大学の入学者数は表 3 のとおりであ
る。岐阜大学では 6 年間の平均で 6.7 人、鳥取大学では 4.3 人である。この数値が入学定員の
設定のベースとなる値と考えた。

表 3 : 岐阜連獣・岐阜大学及び山口連獣・鳥取大学における年度別入学数（過去 6 年間）

（単位：人）

区 分	岐阜大学	鳥取大学
平成 24 年度	7	4
平成 25 年度	8	4
平成 26 年度	7	6
平成 27 年度	9	3
平成 28 年度	4	3
平成 29 年度	5	6
平均（6 年間）	6.7	4.3

※1 数字は 4 月入学及び 10 月入学の合計である。

2 入学状況について

岐阜連獣において、平成 27 年度に大幅な定員超過（入学定員 20 人に対し 37 人入学）があったことから、平成 28 年度以降については、配置大学が自発的に入学者を抑制するなどの対応を行った。

岐阜大学及び鳥取大学の入学者を日本人学生（社会人除く）、留学生、社会人に区分したものを表 4 に示す。日本人学生の多くは自大学からの進学である。留学生の国籍はバングラディッシュ、エジプト、中国、タイ、マレーシア、パキスタン、スペイン等である。社会人は、臨床獣医師、公衆衛生獣医師、製薬会社の職員等である。

表4：岐阜連獣・岐阜大学及び山口連獣・鳥取大学における年度別入学者の区分（過去6年間）

（単位：人）

区 分	岐阜大学					鳥取大学				
	日本人学生 (社会人除く)			留学生	社会人	日本人学生 (社会人除く)			留学生	社会人
	母校 出身	他学 出身	計			母校 出身	他学 出身	計		
平成 24 年度	2	1	3	3	1	2	0	2	2	0
平成 25 年度	5	2	7	1	0	2	0	2	1	1
平成 26 年度	4	1	5	1	1	0	1	1	0	5
平成 27 年度	2	1	3	6	0	1	0	1	1	1
平成 28 年度	2	0	2	1	1	2	0	2	0	1
平成 29 年度	2	3	5	0	0	3	0	3	1	2
平均(6年間)	2.8	1.3	4.2	2.0	0.5	1.7	0.2	1.8	0.8	1.7

（2）アンケート調査の実施

入学定員の設定に当たり、学生の確保の見通しを明らかにするため、平成 29 年 8～9 月に各構成大学（岐阜大学、鳥取大学）の共同獣医学科在学生（1～6 年生）、卒業生、さらに、地域のニーズを調査するために各県の獣医師会（岐阜県獣医師会、鳥取県獣医師会）に所属する獣医師を対象として、「共同獣医学研究科の設置に関するアンケート」を行った。その結果、2,993 人中 1,150 人から回答を得た（回答率 38.4%、表 5）。

表5：対象別の回答者数

（単位：人）

区 分	岐阜大学	鳥取大学
共同獣医学科在学生	183	214
大学院在学生	35	14
社会人（卒業生・獣医師）	389	315
計	607	543

(2-1) 在学生へのアンケート調査の結果

岐阜大学及び鳥取大学の共同獣医学科の在学生全体（1～6年生）を対象に将来の希望する進路について質問（複数回答可）したところ、入学前の段階では伴侶動物臨床（イヌ・ネコの診療等）が45%であった（表6）。入学後の現時点では、伴侶動物臨床と公務員が多く、共に約30%であった（表7）。進学（大学院、留学）を選択肢の一つとして考えている在学生が、岐阜大学25人（全体の8.2%）、鳥取大学28人（全体の7.6%）いることがわかった。学年ごとの分析では、岐阜大学1～9人、鳥取大学2～7人が進学を選択肢の一つとしていた。

表6：入学前に希望した進路（複数回答可）（1～6年生）

区 分	岐阜大学 (%)	鳥取大学 (%)	2大学計 (%)
民間企業	24 (8.9)	28 (9.0)	52 (8.9)
伴侶動物臨床	118 (43.5)	145 (46.5)	263 (45.1)
公務員	51 (18.8)	65 (20.8)	116 (19.9)
産業動物臨床	40 (14.8)	47 (15.1)	87 (14.9)
進学	14 (5.2)	15 (4.8)	29 (5.0)
その他	24 (8.9)	12 (3.8)	36 (6.2)
合 計	271	312	583

表7：現在、希望する進路（複数回答可）（1～6年生）

区 分	岐阜大学 (%)	鳥取大学 (%)	2大学計 (%)
民間企業	51 (16.7)	44 (12.0)	95 (14.1)
伴侶動物臨床	88 (28.9)	112 (30.5)	200 (29.8)
公務員	82 (26.9)	112 (30.5)	194 (28.9)
産業動物臨床	44 (14.4)	65 (17.7)	109 (16.2)
進学	25 (8.2)	28 (7.6)	53 (7.9)
その他	15 (4.9)	6 (1.6)	21 (3.1)
合 計	305	367	672

博士（獣医学）の需要に関する質問では「増える」と回答した者が29%であり、大学院教育の充実に関する質問では「必要である」と回答した者が35%であった。このことから、学部在学生の約3割が博士（獣医学）の学位所得の必要性和教育の充実を肯定していることが示された（表8、9）。

表 8 : 大学院教育の社会的需要 (1 ~ 6 年生)

(単位 : 人)

区 分	回答者数 (2 大学計)
増える (A)	114
変わらない	120
減る	18
わからない	141
合 計 (B)	393
社会における獣医学博士課程の需要増 (A)/(B)	29.0%

表 9 : 大学院教育の充実 (1 ~ 6 年生)

(単位 : 人)

区 分	回答者数 (2 大学計)
必要である (A)	135
必要ではない	10
わからない	241
合 計 (B)	386
獣医学博士課程における教育充実の必要性 (A)/(B)	35.0%

大学院教育 (博士課程) においてスペシャリストの養成が必要な分野に関する質問 (複数回答可) では、応用獣医学 (家畜衛生学、公衆衛生学、人獣共通感染症学等) が 28% で最も多く、次いで病態獣医学 (微生物学、病理学) が多かった。一方、教育の充実が必要な分野に関する質問 (複数回答可) では、応用獣医学が最も多く、次いで基礎獣医学が多かった。臨床獣医学分野のスペシャリスト養成と教育の充実については、伴侶動物と産業動物臨床がほぼ同じ結果 (13~16%) であった (表 10、11)。これらの結果から、共同獣医学研究科に設置を予定しているスペシャリスト養成プログラムである「家畜衛生・公衆衛生プログラム (病態獣医学と応用獣医学が主に対応)」、「One Health プログラム (病態獣医学と応用獣医学が主に対応)」及び「難病治療・創薬プログラム (基礎獣医学と臨床獣医学が主に対応)」の重要性が示された。

表 10 スペシャリスト養成が必要な分野（複数回答可）（1～6年生）

区 分	岐阜大学 (%)	鳥取大学 (%)	2 大学計 (%)
基礎獣医学	79 (19.1)	78 (17.2)	157 (18.1)
病態獣医学	98 (23.7)	121 (26.7)	219 (25.3)
応用獣医学	125 (30.3)	119 (26.3)	244 (28.2)
臨床獣医学（伴侶動物）	55 (13.3)	74 (16.3)	129 (14.9)
臨床獣医学（産業動物）	52 (12.6)	61 (13.5)	113 (13.0)
その他	4 (1.0)	0	4 (0.5)
合 計	413	453	866

表 11 教育の充実が必要な分野（複数回答可）（1～6年生）

区 分	岐阜大学 (%)	鳥取大学 (%)	2 大学計 (%)
基礎獣医学	23 (20.5)	40 (24.0)	63 (22.6)
病態獣医学	20 (17.9)	32 (19.2)	52 (18.6)
応用獣医学	36 (32.1)	43 (25.7)	79 (28.3)
臨床獣医学（伴侶動物）	16 (14.3)	29 (17.4)	45 (16.1)
臨床獣医学（産業動物）	15 (13.4)	23 (13.8)	38 (13.6)
その他	2 (1.8)	0	2 (0.7)
合 計	112	167	279

※ 表 9 で獣医学の大学院教育の充実が必要と回答した者を対象とした。

在学生の進学志向に関する質問では、「進学したい」、「就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した者は、次のとおりであり、在学生の約 3 割が母校の大学院への進学希望を持っていることがわかった（表 12、13）。学年ごとの分析では、岐阜大学 4～10 人、鳥取大学 2～6 人が母校の大学院への進学を希望していた。

表 1 2 : 大学院進学への希望 (1 ~ 6 年生)

(単位 : 人)

区 分	岐阜大学	鳥取大学	2 大学計
進学したい (A)	9	12	21
就職後、必要を感じたら進学したい (B)	56	41	97
進学したいが、実際には困難	19	28	47
進学を希望しない	78	97	175
わからない	19	33	52
その他	1	3	4
合 計	182	214	396
進学希望者 (A) + (B)	65 (35.7%)	53 (24.8%)	118 (29.8%)

表 1 3 : 進学を希望する大学 (1 ~ 6 年生)

(単位 : 人)

区 分	岐阜大学 (%)	鳥取大学 (%)	2 大学計 (%)
岐阜大学の大学院を希望	43 (65.2)	2 (3.9)	45 (38.5)
鳥取大学の大学院を希望	0	21 (41.2)	21 (17.9)
国内の他大学の大学院を希望	15 (22.7)	21 (41.2)	36 (30.8)
その他	8 (12.1)	7 (13.7)	15 (12.8)
合 計	66	51	117

※ 表 1 2 で「進学したい」、「就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した者を対象とした。

両大学の共同獣医学科では、4 年次に学生を研究室に配属し、各研究室のセミナー等の研究活動に参加した上で、5 年次から卒業研究が開始されることから、「研究への興味や将来の方向性」が固まる時期は 4 年次以降となる。このため、新規の内部 (母校) 進学者を見込むに当たって、実績を踏まえた数字として、4 ~ 6 年次のアンケートにおいて「進学したい」、「就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した者の結果を踏まえた。

回答結果から、1 年あたりの内部 (母校) 進学者は、岐阜大学 6.7 人、鳥取大学 4.7 人、合計 11.4 人が見込まれる。また、岐阜大学連獣 (岐阜大学) あるいは山口大学連獣 (鳥取大学) への母校進学者の実績 (1 年あたり岐阜大学 2.8 人、鳥取大学 1.7 人) を差し引いて算出される新規の内部 (母校) 進学者は、岐阜大学 3.9 人、鳥取大学 3.0 人、合計 6.9 人が見込まれる

(表 1 4、1 5)。

表 14 : 大学院進学への希望 (4 ~ 6 年生)

(単位 : 人)

区 分	岐阜大学	鳥取大学	2 大学計
進学したい (A)	2	4	6
就職後、必要を感じたら進学したい (B)	32	24	56
進学したいが、実際には困難	7	14	21
進学を希望しない	45	53	98
わからない	3	12	15
その他	0	1	1
合 計	89	108	197
進学希望者 (A) + (B)	34 (38.2%)	28 (25.9%)	62 (31.5%)

表 15 進学を希望する大学 (4 ~ 6 年生)

(単位 : 人)

区 分	岐阜大学	鳥取大学	2 大学計
岐阜大学の大学院を希望 (A)	20 (64.5%)	1	21 (35.6%)
鳥取大学の大学院を希望 (B)	0	14 (50.0%)	14 (23.7%)
国内の他大学の大学院を希望	10	7	17
その他	1	6	7
合 計	31	28	59
1 年あたりの内部進学者見込数 (C) (A) / 3、(B) / 3	6.7	4.7	11.4
連獣の母校進学者の実績 (D)	2.8	1.7	4.5
1 年あたりの新規内部進学者見込数 (C) - (D)	3.9	3.0	6.9

※ 表 14 で「進学したい」、「就職後、必要を感じたら進学したい」と回答した者を対象とした。

進学が困難あるいは進学を希望しない理由として、修学期間の長さ、就職及び経済的な問題が多いことから、修学期間短縮等の対策、社会人になっても就学できる体制の設置及び経済的支援の必要性が示された。在学生にとって進学意欲が高まる大学院像としては、高度な技術知識を修得してスペシャリストとして活躍できるような教育体制が求められていることが判明した (表 16、17)。

表 16：進学が困難、進学を希望しない理由（複数回答可）（1～6年生）

区 分	岐阜大学 (%)	鳥取大学 (%)	2 大学計 (%)
経済的な問題	39 (22.8)	48(19.9)	87 (21.1)
就職	34 (19.9)	54(22.4)	88 (21.4)
生活の問題	22 (12.9)	36(14.9)	58 (14.1)
修学期間の長さ	44 (25.7)	55(22.8)	99 (24.0)
年齢	24 (14.0)	48(19.9)	72 (17.5)
その他	8 (4.7)	0 (0)	8 (1.9)
合 計	171	241	412

※ 表 12 で「進学したいが、実際には困難」、「進学を希望しない」と回答した者を対象とした。

表 17：無理をしても進学したい大学院像（複数回答可）（1～6年生）

区 分	岐阜大学 (%)	鳥取大学 (%)	2 大学計 (%)
終了後にスペシャリストとして活躍できる教育	130 (42.5)	148 (37.0)	278 (39.4)
研究者としての基礎構築	18 (5.9)	28 (7.0)	46 (6.5)
高度な技術知識の修得	67 (21.9)	111 (27.8)	178 (25.2)
世界レベルの先端研究	57 (18.6)	88 (22.0)	145 (20.5)
論理的思考基盤の修得	25 (8.2)	23 (5.8)	48 (6.8)
その他	9 (2.9)	2 (0.5)	11 (15.6)
合 計	306	400	706

（2-2）大学院生へのアンケート調査の結果

岐阜大学連獣（岐阜大学）及び山口大学連獣（鳥取大学）の在大学生を対象にアンケート調査を実施した結果、各分野に所属する大学院生から回答を得た（表 18、19、20）。

表 18 : 所属研究科別の回答者数

区 分	回答者数 (人)
岐阜大学連獣	35
山口大学連獣	14
合 計	49

表 19 : 国籍別の回答者数

区 分	回答者数 (人)
日本人	37
外国人留学生	4
不明・未記入	8
合 計	49

表 20 : 分野別の回答者数

区 分	回答者数 (人)
基礎獣医学	10
病態獣医学	7
病態獣医学	14
臨床獣医学	12
不明・未記入	6
合 計	49

獣医学研究科の質の向上を実践するための方法としては、研究設備と授業カリキュラムの充実が求められ、研究に役立つ手法（プレゼン等）に関するカリキュラムの設置や専門分野の深化が強く要望された（表 21、22）。

表 2 1 : 質の向上を実践する方法 (複数回答可)

区 分	岐阜大学 (%)	鳥取大学 (%)	2 大学計 (%)
授業カリキュラムの充実	12 (20.7)	11 (37.9)	23 (26.4)
教員の質の向上	12 (20.7)	7 (24.1)	19 (21.8)
研究設備の充実	26 (44.8)	10 (34.5)	36 (41.4)
その他	8 (13.8)	1 (3.4)	9 (10.3)
合 計	58	29	87

表 2 2 : 大学院に望むカリキュラム (複数回答可)

区 分	岐阜大学 (%)	鳥取大学 (%)	2 大学計 (%)
専門分野の深化	16 (24.2)	11 (39.3)	27 (28.7)
専門外分野	6 (9.1)	2 (7.1)	8 (8.5)
研究に役立つ手法 (プレゼン等)	26 (39.4)	8 (28.6)	34 (36.2)
論理的な考え方の強化	15 (22.7)	5 (17.9)	20 (21.3)
余計なカリキュラムは不要	3 (4.5)	2 (7.1)	5 (5.3)
合 計	66	28	94

岐阜大学連獣 (岐阜大学) 及び山口大学連獣 (鳥取大学) に関する質問では、研究力の養成を、それぞれ約 60% が肯定していた。従来の連合大学院において所属大学と他大学の教員により指導姿勢に違いがあることは、それぞれ 37 及び 21% が認めている。これは、学部教育の指導姿勢に違いがそのまま大学院教育に反映されている結果と理解できる。岐阜大学と鳥取大学は、共同獣医学科という一体化した体制で教育を行っているため、均一な指導姿勢で大学院教育を行える。実際に、共同獣医学科教員が大学院を担当することに対するメリットを、それぞれ 49 及び 86% が肯定している。指導教員以外からアドバイスが得られていると回答した者は、それぞれ約 50% であり、共同獣医学研究科設置による学部教育から大学院教育への継続実施に対しては半数以上が好意的に捉えられていることが判明した (表 2 3 ~ 表 2 6)。

表 2 3 : 連獣で十分な研究力が養成されているか

(単位 : 人)

区 分	岐阜大学	鳥取大学	2 大学計
強く思う (A)	9	0	9
どちらかと言えば思う (B)	12	9	21
どちらとも言えない (わからない)	8	4	12
どちらかと言えば思わない	5	0	5
全く思わない	1	1	2
合 計 (C)	35	14	49
研究力養成を肯定 (A) + (B) / (C)	60.0%	64.3%	61.2%

表 2 4 : 連獣で所属大学と他大学の教員間で指導姿勢に違いがあるか

(単位 : 人)

区 分	岐阜大学	鳥取大学	2 大学計
強く思う (A)	5	0	5
どちらかと言えば思う (B)	8	3	11
どちらとも言えない (わからない)	15	9	24
どちらかと言えば思わない	5	2	7
全く思わない	2	0	2
合 計 (C)	35	14	49
指導姿勢の違いを肯定 (A) + (B) / (C)	37.1%	21.4%	32.7%

表 2 5 : 連獣で指導教員以外のアドバイスは得られているか

(単位 : 人)

区 分	岐阜大学	鳥取大学	2 大学計
強く思う (A)	9	2	11
どちらかと言えば思う (B)	9	5	14
どちらとも言えない (わからない)	8	4	12
どちらかと言えば思わない	8	2	10
全く思わない	1	1	2
合 計 (C)	35	14	49
アドバイスを肯定 (A) + (B) / (C)	51.4%	50.0%	51.0%

表 26 : 共同獣医学科教員の大学院担当によりメリットがあるか

(単位:人)

区 分	岐阜大学	鳥取大学	2 大学計
強く思う (A)	5	5	10
どちらかと言えば思う (B)	12	7	19
どちらとも言えない (わからない)	13	2	15
どちらかと言えば思わない	4	0	4
全く思わない	1	0	1
合 計 (C)	35	14	49
メリットを肯定 (A) + (B) / (C)	48.6%	85.7%	59.2%

(2-3) 社会人に対するアンケート調査の結果

本共同獣医学研究科では、社会人について積極的に受け入れることとしており、そのニーズを把握するため、岐阜大学及び鳥取大学の卒業生並びに岐阜県及び鳥取県在住の獣医師といった社会人を対象にアンケート調査を実施し、計 704 人からの回答を得た (表 27、28)。

表 27 : 年齢別の回答者数

区 分	回答者数 (人)
20～30代	139
40代以上	558
不明	7
合 計	704

表 28 : 職種別の回答者数

区 分	回答者数 (人)
民間企業 (獣医系)	41
民間企業 (獣医系以外)	45
公務員 (公衆衛生)	106
公務員 (畜産)	93
公務員 (その他)	18
伴侶動物臨床	204
産業動物臨床	48
進学 (獣医系大学院)	2
進学 (獣医系以外の大学院)	3
その他	78
合 計	638

博士 (獣医学) の社会的需要に関する質問では「増える」と回答した者は 32%であったが、学位取得者により組織にメリットが生じるとの回答が 64%と多く、大学院教育の充実の必要性を肯定する回答が 63%と多かった (表 29 ~ 31)。

表 29 : 大学院教育の社会的需要

区 分	回答者数 (人)
増える (A)	223
変わらない	252
減る	38
わからない	179
合 計 (B)	692
獣医学博士課程の社会的な需要の増加 (A)/(B)	32.2%

表 3 0 : 大学院教育の充実

区 分	回答者数 (人)
必要である (A)	443
必要ではない	22
わからない	235
合 計 (B)	700
獣医学博士課程における教育充実の必要性 (A)／(B)	63.3%

表 3 1 : 博士号取得者の存在が組織のメリットとなるか

区 分	回答者数 (人)
強く思う (A)	86
思う (B)	355
思わない	142
わからない	107
合 計 (C)	690
学位取得者による組織へのメリットあり (A) + (B)／(C)	63.9%

大学院教育（博士課程）においてスペシャリスト養成と教育の充実が必要な分野に関する質問（複数回答可）では、応用獣医学分野（家畜衛生学、公衆衛生学、人獣共通感染症学等）とする回答が最も多く、次いで病態獣医学分野（微生物学、病理学）が多かった（表 3 2、3 3）。基礎獣医学分野と臨床獣医学分野のスペシャリスト養成と教育の充実については、基礎獣医学分野、臨床獣医学分野（伴侶動物）及び臨床獣医学分野（産業動物臨床）がほぼ同じ結果（13～15%）であった。これらの結果から、共同獣医学研究科に設置を予定しているスペシャリスト養成プログラムである「家畜衛生・公衆衛生プログラム（病態獣医学と応用獣医学が主に対応）」、「One Health プログラム（病態獣医学と応用獣医学が主に対応）」及び「難病治療・創薬プログラム（基礎獣医学と臨床獣医学が主に対応）」の重要性が示された。スペシャリストとして強化するプログラムの設定に対しては回答の 86%が肯定的であった（表 3 4）。

表 3 2 : スペシャリスト養成が必要な分野 (複数回答可)

区 分	岐阜大学 (%)	鳥取大学 (%)	2 大学計 (%)
基礎獣医学	125 (14.9)	85 (12.1)	210 (13.7)
病態獣医学	188 (22.5)	153 (21.9)	341 (22.2)
応用獣医学	293 (35.0)	232 (33.1)	525 (34.2)
臨床獣医学 (伴侶動物)	114 (13.6)	98 (14.0)	212 (13.8)
臨床獣医学 (産業動物)	103 (12.3)	114 (16.3)	217 (14.1)
その他	14 (1.7)	18 (2.6)	32 (2.1)
合 計	837	700	1537

表 3 3 : 教育の充実が必要な分野 (複数回答可)

区 分	岐阜大学 (%)	鳥取大学 (%)	2 大学計 (%)
基礎獣医学	85 (15.3)	69 (14.6)	154 (15.0)
病態獣医学	118 (21.3)	100 (21.1)	218 (21.2)
応用獣医学	194 (35.0)	150 (31.7)	344 (33.5)
臨床獣医学 (伴侶動物)	79 (14.2)	65 (13.7)	144 (14.0)
臨床獣医学 (産業動物)	66 (11.9)	76 (16.1)	142 (13.8)
その他	13 (2.3)	13 (2.7)	26 (2.5)
合 計	555	473	1028

※ 表 3 0 で獣医学の大学院教育の充実が必要と回答した者を対象とした。

表 3 4 : スペシャリストとして強化するプログラムの設定

区 分	回答者数 (人)
大変良い (A)	235
良い (B)	365
あまり意味がない	36
全く意味がない	4
わからない	55
合 計 (C)	695
スペシャリスト強化プログラムを肯定 (A) + (B) / (C)	86.3%

社会人になっても就学できる（働きながら進学できる）大学院の必要性に関する質問では、「必要である」と回答した者が 82%であり、社会人の大学院への進学志向が非常に高いことがわかった。職場に学位取得希望者がいるとの回答は 32%であった。このことから、学部卒業後に就職して実務に従事する中で、様々な課題に直面し、大学院での教育を受けて専門性を高め、更なる知識・技能を習得したいと考えている社会人が多いことが推測された（表 3 5、3 6）。

表 3 5：社会人になっても就学できる（働きながら進学できる）大学院の必要性

区 分	回答者数（人）
必要である (A)	564
必要ではない	26
分からない	100
合 計 (D)	690
働きながら進学できる大学院の必要性 (A)／(D)	81.7%

表 3 6：職場に獣医学の学位取得希望者がいるか

区 分	回答者数（人）
いる (A)	209
いない	261
わからない	191
合 計 (B)	661
職場における学位取得希望者 (A)／(B)	31.6%

社会人に共同獣医学研究科（4年生博士課程）への入学の検討について調査をしたところ、「岐阜大学大学院に進学したい」、「鳥取大学大学院に進学したい」、「その他の大学院に進学したい」、「必要を感じたら進学したい」と回答した者が 22%であり、社会人の 5 人に 1 人が博士（獣医学）の学位の取得を希望していることが示された。「岐阜大学大学院に進学したい」、「鳥取大学大学院に進学したい」という回答から 1 年あたりの新規社会人見込者数を推定したところ、岐阜大学では 1.1 名、鳥取大学では -0.8 人であった（表 3 7）。

表 37 : 大学院進学への希望、進学を希望する大学 (対象者 : 獣医学博士号なし) 全体

(単位 : 人)

区 分	岐阜大学 卒業生	鳥取大学 卒業生	他大学 卒業生	計	連獣 実績	新規入学 見込者数
岐阜大学大学院に進学したい (A)	15	1	0	16	0.5	1.1
鳥取大学大学院に進学したい (B)	0	8	1	9	1.7	-0.8
その他の大学院に進学したい (C)	3	1	0	4		
必要を感じたら進学したい (D)	36	33	15	84		
進学したいが、実際には困難	61	37	18	116		
進学を希望しない	114	90	66	270		
わからない	6	1	1	8		
その他	8	2	1	11		
合 計	243	173	102	518		
進学希望者 (A) + (B) + (C) + (D) (%)	54 (22.2)	43 (24.9)	16 (15.7)	113 (21.8)		

※ 1年あたりの新規社会人見込者数は、岐阜大学大学院に進学したい者 ((A)の計) 及び鳥取大学大学院に進学したい者 ((B)の計) が10年間で進学するものとして、(A)の計と(B)の計をそれぞれ10で除した値から、岐阜連獣、山口連獣の社会人入学者の実績値 (6年平均値として岐阜大学0.5人、鳥取大学1.7人、表4) を差し引いた数値である。

進学が困難あるいは進学を希望しない理由としては、年齢との回答が最も多かった (表38)。20～30代の回答では、生活の問題や経済的な問題が多いことから、学費の減免や奨学金 (奨励金) の充実などの経済的支援の必要性が示された (表39)。

表 38 : 進学が困難、進学を希望しない理由 (複数回答可) (対象者 : 獣医学博士号なし)

全体

区 分	岐阜大学 (%)	鳥取大学 (%)	2 大学計 (%)
経済的な問題	51 (13.5)	50 (15.6)	101 (14.4)
職場の理解	29 (7.7)	26 (8.1)	55 (7.9)
生活の問題	63 (16.6)	58 (18.1)	121 (17.3)
修学期間の長さ	29 (7.7)	19 (5.9)	48 (6.9)
年齢	112 (29.6)	89 (27.7)	201 (28.7)
地理的要因	50 (13.2)	49 (15.3)	99 (14.1)
その他	45 (11.9)	30 (9.3)	75 (10.7)
合 計	379	321	700

※ 表 37 で「進学したいが、実際には困難」、「進学を希望しない」と回答した者を対象とした。

表 39 : 進学が困難、進学を希望しない理由 (複数回答可) (対象者 : 獣医学博士号なし)

20~30代

区 分	岐阜大学 (%)	鳥取大学 (%)	2 大学計 (%)
経済的な問題	23(20.2)	13 (20.3)	36 (20.2)
職場の理解	16(14.0)	3 (4.7)	19(10.7)
生活の問題	26(22.8)	16 (25.0)	42 (23.6)
修学期間の長さ	15(13.2)	4 (6.3)	19(10.7)
年齢	6(5.3)	3 (4.7)	9 (5.1)
地理的要因	14(12.3)	14 (21.9)	28(15.7)
その他	14(12.3)	11 (17.2)	25 (14.0)
合 計	114	64	178

※ 表 38 のうち、20~30代の回答者を対象とした。

ウ) 学生納付金設定の考え方

学生納付金については、国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成 16 年 3 月 31 日文科科学省令第 16 号）に基づき、同省令に掲げる授業料、入学料及び検定料の額を標準とし、各大学において設定する。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

(1) 学生の確保

学生確保に向けた具体的な取組としては、家畜衛生・公衆衛生スペシャリスト、One Health スペシャリストまたは難病治療・創薬スペシャリスト養成コースを有する特色的で質の高い教育を提供していること、及び従来の岐阜連獣や山口連獣と比べて時間的・地理的な制約を最大限排除していることが挙げられる。また、それらのメリットを適切に周知している。具体的には以下のとおりである。

1. 共同獣医学研究科は、獣医学分野において質・量ともに十分な実績がある岐阜大学、鳥取大学が持つリソースを相乗的に組み合わせた教育課程を提供できることに特色がある。そのため、学生募集に際しての展開として、本共同獣医学研究科の特色を踏まえた、岐阜大学、鳥取大学の対象学生に加え、広く中部地区及び中国地区で周知活動を行うこととする。具体的には、獣医師大会や家畜衛生協議会などの獣医学に関連する学会や研究会等の機会を活かし、可能な範囲で周知する。また、共同獣医学研究科に新たに附置する「獣医学教育研究開発推進センター（以下、大学院センター）」では、学部学生に早期から大学院環境に接する機会（大学院講義の聴講、大学院生との共同ゼミの開催）を与えることにより、将来、大学院で研究活動を遂行する上で必要となる知識やノウハウを前倒して体得できるようにする。大学院センターが大学院進学への興味を高めるプログラムを企画・展開し、大学院を理解する機会を提供することにより、学部学生の大学院への進学意欲の向上につながる。
2. 獣医療関係の職場や保健行政等の職場などで経験を積む社会人についても、いわゆる 14 条特例を適用し積極的に受け入れること、及び必要に応じて集中講義や実習を行うこと等を適切に周知することとする。教育手法としては、地理的に遠隔地にある両大学による教育を効果的に行うため、遠隔講義システムや e ラーニングコンテンツなどインターネット環境を活用する。

Ⅱ 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（概要）

岐阜大学及び鳥取大学は、家畜衛生・公衆衛生に関わる専門性の高い知識と技術、One Healthを背景とする高度な知識と技術、小動物獣医療における高度化、専門化した高度診療体制を有し、それぞれ関連する施設が設置されている（岐阜大学の家畜衛生地域連携教育研究センター、家畜衛生地域連携教育研究センター、野生動物管理学研究センター、生命の鎖研究センター、動物病院、鳥取大学の鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター、菌類きこ遺伝資源研究センター、動物医療センターなど）。共同獣医学研究科においてもこれらの両大学の強みを活かすことで、獣医学及び動物科学に関する高度な専門知識と研究能力を備えた先導的獣医学教育者および研究者、幅広い学際的な素養とグローバルな視点を基盤に、独創的な研究力とコミュニケーション力を発揮して、社会的要請に応える地域のリーダーとなりうる獣医学教育者および研究者、家畜衛生・公衆衛生スペシャリスト、One Health スペシャリストまたは難病治療・創薬スペシャリストとして獣医学及び動物科学における諸問題に対応または解決できる獣医学教育者および研究者を育て上げ、国際通用性のある大学院として社会を先導する博士を養成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア) 人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠

(1) 人材需要の動向と社会の要請（まとめ）

これまでの東西連合獣医学研究科における実績として、過去6年間の平均修了者数は、岐阜大学6.7人、鳥取大学4.3人、合計11.0人であり（表3）、民間企業や研究所等に就職していることから、今後も同規模の需要はあるものと見込まれる。

博士号を有していない獣医師に対する調査を行った結果、学位取得希望者（進学希望者）は獣医系民間企業で34%、非獣医系民間企業で27%、公衆衛生関係の公務員で19%、畜産系の公務員で22%、その他の公務員で27%、伴侶動物臨床獣医師で22%、産業動物臨床獣医師で14%、全体として22%（518名中113名、表37及び40）であり、いずれの分野においても学位取得者の需要は見込まれる。

留学生が母国で活躍することを国際的な人材需要と考え、これまでの入学者数を海外での人材需要と位置づけることができるが、過去6年間の平均実績から毎年2.8人（岐阜大学2.0人、鳥取大学0.8人、表4）が国際的な需要と見込まれる。

なお、本共同獣医学研究科において、社会人学生以外の学生数は、岐阜大学5人（日本人学生3人、留学生2人）、鳥取大学4人（日本人学生3人、留学生1人）の計9人を想定しており、修了後の就職先等の需要は充分確保されている。

以上のように東西連獣の実績及び新規需要見込みを考慮し、国内外において喫緊の課題を解決できる獣医学分野の博士人材を養成するためには、両大学で合計11人の入学定員が必要である。

なお、国立研究開発法人科学技術振興機構 JREC-IN Portal（研究人材のためのキャリア支援ポータルサイト）からの提供データ（平成23～27年度）では、農学・動物生命科学分野における大学教員（助教相当）／研究員／ポストクの求人状況において、平成23年度と27年度を比較すると、増加基調にある。動物生命科学以外の分野（実験動物学、基礎医学、基礎生物学等）を含め、獣医学分野の博士人材全体では、今後更なる需要があるものと考えられる。

表 40 : 大学院進学への希望、進学を希望する大学 (対象者 : 獣医学博士号なし)

(単位 : 人)

区 分	民間企業		公務員			臨床		計
	獣医系	獣医 以外	公衆 衛生	畜産	その他	伴侶 動物	産業 動物	
岐阜大学大学院に 進学したい (A)	1	2	1	4	0	6	2	16
鳥取大学大学院に 進学したい (B)	1	2	1	1	0	3	1	9
その他の大学院に 進学したい (C)	2	0	0	0	0	2	0	4
必要を感じたら進 学したい (D)	7	6	21	13	4	30	3	84
進学したいが、実際 には困難	5	6	20	18	1	54	12	116
進学を希望しない	14	19	74	48	7	86	22	270
わからない	0	1	1	0	1	3	2	8
その他	2	1	2	1	2	2	1	11
合 計	32	37	120	85	15	186	43	518
進学希望者 (A) + (B) + (C) + (D)、 (%)	11 (34.4)	10 (27.0)	23 (19.2)	18 (21.2)	4 (26.7)	41 (22.0)	6 (14.0)	113 (21.8)

社会人アンケートの結果 (岐阜大学卒業生、鳥取大学卒業生、他大学卒業生) の 2 大学合計の数値を示す。表 37 の職種別内訳に該当する。

(2) 人材の養成に関する社会的な要請

i) 獣医師を取り巻く社会的状況

農林水産省が取りまとめた「獣医師の需給に関する検討会報告書 (平成 19 年 5 月)」によれば、新卒の獣医師が産業動物分野及び公務員獣医師を選択する割合は相対的に低く、各地域において産業動物獣医師及び公務員獣医師の減少が予測されている。また、獣医師法第 22 条に基づく届出概況 (平成 26 年 12 月 31 日現在) によれば、新卒の獣医師の過半数が小動物分野を選択していること等、小動物領域における獣医師の活動分野が増している。

そのような状況の中で、岐阜大学及び鳥取大学においては、産業動物分野及び公務員獣医師を目指す獣医師の育成のため、地方行政施設等との連携による「公衆・家畜衛生インターンシップ実習」を必修化し、家畜衛生・公衆衛生分野の充実・強化に取り組んできた。しかし、現場における産業動物獣医師、家畜衛生・公衆衛生獣医師及び小動物獣医師の育成には、高度な知識と経験を有したリーダーとなりうる獣医師（博士人材）が必要とされている。

一方、文部科学省が招集した「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（平成26年6月）」では、獣医学系の大学院について、成長著しいライフサイエンス研究への貢献の期待が述べられるなど、今後、ライフサイエンスの分野においても高度な専門性を持った獣医師の需要が益々高まると考えられる。

ii) 国・民間企業等における要請（アンケート調査の結果より）

様々な職種で業務に携わっている獣医師にアンケート調査を行った結果、スペシャリスト強化のプログラム設定について肯定的に返答している率は86%に達していた（表3-4）。回答のあった1,537名のうち56%に相当する866名が新研究科で構想する「家畜衛生・公衆衛生」「One Health」に関連する病態獣医学・応用獣医学分野にスペシャリスト養成が必要であると考えていることがわかった（表3-2）。また、「難病治療・創薬」に関連する基礎獣医学、臨床獣医学分野でのスペシャリスト養成については、それぞれ14%、28%が必要と回答している。これらのことから、獣医学分野に関する人材を採用している企業等の現場においては、博士（獣医学）の資格を持つ者の専門知識や技術が強く求められていることが確認された。その中でも特に、獣医衛生学分野及び新たな職域・職種の広がりとして創薬におけるトランスレーショナルリサーチの広がりやグローバルな医薬品開発における規制当局（FDA、EMA など）との科学的なディスカッション等に対応し得る獣医学に係る高度な専門知識と研究能力を備えた人材が求められており、企業等において博士（獣医学）の活躍が期待される新たな職種や業務内容が生じている状況が明らかとなった。

社会人へのアンケート調査を職域ごとにまとめた結果、「家畜衛生・公衆衛生」「One Health」に関連する応用獣医学分野におけるスペシャリスト養成が重要であるとの回答は、民間企業に在職する獣医師で33%、公務員獣医師で40%、臨床獣医師で29%となっており、業務内容と良く一致した要請があることがわかる（表4-1～4-3）。近年の食の安全性確保の高まりから、農林水産省が「畜産農場における飼養衛生管理向上の取組認証基準（農場 HACCP 認証基準：Hazard Analysis Critical Control Point）」を2011年から開始するなど、畜産農場や関連業者、公務員等に、現場を正しくリードできる人材養成が重要となってきた。また、持続可能農業実現のための「農業生産工程管理（Good Agricultural Practice：GAP）」手法が畜産分野にも適用されており、特に、2020年東京オリンピック・パラリンピックの食材調達基準に、「Japan Good

Agricultural Practice (JGAP: ジェイギャップ) = 農場用管理点と適合基準」の家畜・畜産版が官邸主導で導入されている。このような背景が、特に公務員獣医師において、応用分野のスペシャリストとして博士（獣医学）の活躍が望まれているものと思われる。

さらに、文部科学省の「世界の成長を取り込むための外国人留学生の受入れ戦略（報告書）」（平成25年12月18日 戦略的な留学生交流の推進に関する検討会）においては、我が国の更なる発展を目的とした戦略による「攻め」の留学生受入れに取り組むことが必要であると示されており、外国人留学生受入れ施策の成果が十分に期待できる重点分野の一つである農学において食料安全保障について言及されている。特に、悪性海外伝染病（高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫）の水際での防疫より、発生の源であるアジア地域での撲滅（川上対策）が、より効果的であることから、「海外獣医衛生学分野のリーダー人材」の育成として、国費を用いて留学生を教育することは、我が国に対して大きく貢献するものである。新大学院の「One Health スペシャリスト」の養成プログラムは、このような要請と良く一致するものであると言える。

「難病治療・創薬」に関連する基礎および臨床獣医学分野におけるスペシャリスト養成が重要であるとの回答は、民間企業に在職する獣医師で17%および24%、公務員獣医師で11%および24%、臨床獣医師で14%および32%となっており、ライフサイエンスの分野においても高度な専門性を持った獣医師の需要、高度化する獣医療や創薬におけるトランスレーショナルリサーチに貢献できる獣医師の需要は、職所を超えて重要視されていることが明らかとなった。新大学院で構想する「難病治療・創薬スペシャリスト」の養成は、これらのニーズに対応するものとして位置づけられる。

表41：スペシャリスト養成が必要な分野（複数回答可）

職域別まとめ：民間企業（獣医系、獣医以外）

区 分	民間企業（獣医系）		民間企業（獣医以外）		民間企業 計 2大学計 (%)
	岐阜大	鳥取大	岐阜大	鳥取大	
基礎獣医学	12 (22.2)	4 (11.1)	9 (16.7)	5 (14.7)	30 (16.9)
病態獣医学	15 (27.8)	11 (30.6)	12 (22.2)	5 (14.7)	43 (24.2)
応用獣医学	16 (29.6)	10 (27.8)	21 (38.9)	11 (32.4)	58 (32.6)
臨床獣医学（伴侶動物）	5 (9.3)	4 (11.1)	2 (3.7)	7 (20.6)	18 (10.1)
臨床獣医学（産業動物）	3 (5.6)	5 (13.9)	10 (18.5)	6 (17.6)	24 (13.5)
その他	3 (5.6)	2 (5.6)	0 (0)	0 (0)	5 (2.8)
合 計	54	36	54	34	178

表 4 2 : スペシャリスト養成が必要な分野 (複数回答可)

職域別まとめ : 公務員 (公衆衛生、畜産、その他)

区 分	公務員 (公衆衛生)		公務員 (畜産)		公務員 (その他)		公務員計 2 大学計 (%)
	岐阜大	鳥取大	岐阜大	鳥取大	岐阜大	鳥取大	
基礎獣医学	15 (10.2)	11 (14.7)	13 (13.4)	9 (8.1)	2 (7.1)	1 (11.1)	51 (10.9)
病態獣医学	35 (23.8)	19 (25.3)	24 (24.7)	29 (26.1)	4 (14.3)	1 (11.1)	112 (24.0)
応用獣医学	66 (44.9)	30 (40.0)	35 (36.1)	37 (33.3)	13 (46.4)	5 (55.5)	186 (39.8)
臨床獣医学 (伴侶動物)	16 (10.9)	8 (10.7)	8 (8.2)	9 (8.1)	4 (14.3)	0 (0)	45 (9.6)
臨床獣医学 (産業動物)	14 (9.5)	7 (9.3)	16 (16.5)	26 (23.4)	5 (17.9)	1 (11.1)	69 (14.8)
その他	1 (0.7)	0 (0)	1 (1.0)	1 (0.9)	0 (0)	1 (11.1)	4 (0.9)
合 計	147	75	97	111	28	9	467

表 4 3 : スペシャリスト養成が必要な分野 (複数回答可)

職域別まとめ : 臨床 (伴侶動物、産業動物)

区 分	臨床 (伴侶動物)		臨床 (産業動物)		臨床 計 2 大学計 (%)
	岐阜大	鳥取大	岐阜大	鳥取大	
基礎獣医学	44 (17.9)	30 (12.7)	3 (9.4)	8 (12.5)	85 (14.2)
病態獣医学	48 (14.3)	69 (29.2)	4 (12.5)	13 (20.3)	134 (22.4)
応用獣医学	66 (26.8)	78 (33.1)	12 (37.5)	17 (26.6)	173 (28.9)
臨床獣医学 (伴侶動物)	60 (24.4)	46 (19.5)	2 (6.3)	7 (10.9)	115 (19.2)
臨床獣医学 (産業動物)	24 (9.8)	27 (11.4)	10 (31.3)	18 (28.1)	79 (13.2)
その他	4 (1.6)	6 (2.5)	1 (3.1)	1 (1.6)	12 (2.0)
合 計	246	256	32	64	598

(3-1) 岐阜連獣及び山口連獣における修了者の実績

平成 23 年度から 28 年度における東西連獣の両大学の修了者実績としての平均修了者数は、岐阜大学 9.0 人、鳥取大学 5.7 人であった（表 4 4）。ただし、修了者数は年度によりばらつきがあるが、入学者数や早期卒業者数のばらつき、経済的事情、出産・育児等で休学する学生や社会人学生が 4 年間で修了できないケースがあることによる。

なお、修了者の実績については、近年の動向・傾向を踏まえるため、入学者数の実績に対応して平成 23 年度から 28 年度（6 年間）までを対象とした。

表 4 4 : 岐阜連獣における岐阜大学、山口連獣における鳥取大学の修了者の実績

(単位：人)

区 分	岐阜大学	鳥取大学	2 大学計
平成 23 年度	7	4	11
平成 24 年度	10	9	19
平成 25 年度	13	9	22
平成 26 年度	5	5	10
平成 27 年度	7	3	10
平成 28 年度	12	4	16
合計	54	34	88
平均	9.0	5.7	14.7

※1 上記は、岐阜大学及び鳥取大学配置の学生数である。

2 経済的事情又は出産・育児による事情により、やむを得ず退学する者が、毎年 1 人から 2 人程度はいるが、ほとんどの入学者は修了し、指導教員の支援の下に就職をしている。

(3-2) 岐阜連獣及び山口連獣における修了者の主な就職先（職域別）

平成 23 年度から 28 年度における岐阜連獣および山口連獣の就職先を職域に分類して解析を行った（表 4 5）。岐阜大学では、教員（獣医学及び医学部）として活躍する人材が多く、次いで民間研究所等の研究職、国公立研究所での研究職、臨床（大動物及び小動物）の順である。年平均では、教員として 2.5 人、民間研究所等に 1.8 人、国公立研究所と臨床獣医師にそれぞれ 0.8 人が就職している。鳥取大学の就職先分類でも、教員（獣医学及び医学部）として活躍する人材が多く、次いで国公立研究所での研究職と臨床（大動物及び小動物）である。年平均では、教員として 2.8 人、国公立研究所と臨床獣医師としてそれぞれ 1.0 人が就職している。

表 4 5 : 岐阜連獣および山口連獣における修了者の就職先実績 (職域別)

(単位 : 人)

職 域	大学等 教育・研究職		民間研究所等 研究職		国公立研究所 研究職		官公庁		民間動物病院		その他	
	岐阜大	鳥取大	岐阜大	鳥取大	岐阜大	鳥取大	岐阜大	鳥取大	岐阜大	鳥取大	岐阜大	鳥取大
就職先実績 (過去6年間)	15	17	11	2	5	6	2	0	5	6	16	3
年 平 均	2.5	2.8	1.8	0.3	0.8	1.0	0.3	0	0.8	1.0	2.7	0.5
2 大学計	5.3		2.1		1.8		0.3		1.8		3.2	

※ 過去6年間の実績数を集計年数6年で除した数値である。

(3-3) 岐阜連獣及び山口連獣における修了者の主な就職先 (プログラム関連分野別)

平成 23 年度から 28 年度における岐阜連獣および山口連獣の就職先を、新大学院で構想している3つのスペシャリスト養成プログラムに関連する分野別に分析した (表 4 6)。家畜衛生・公衆衛生に関連する分野へは岐阜大学が年平均で 1.3 人、鳥取大学が 0.5 人、One Health に関連する分野へは岐阜大学が 1.3 人、鳥取大学が 0.7 人、難病治療・創薬に関連する分野へは岐阜大学が 4.7 人、鳥取大学が 3.2 人であった。

表 4 6 : 岐阜連獣および山口連獣における修了者の就職先実績 (プログラム関連分野別)

(単位 : 人)

スペシャリスト	家畜衛生・ 公衆衛生		One Health		難病治療・ 創薬		その他		各大学 計	
	岐阜大	鳥取大	岐阜大	鳥取大	岐阜大	鳥取大	岐阜大	鳥取大	岐阜大	鳥取大
就職先実績 (過去6年間) (各大学%)	8 (14.8)	3 (8.8)	8 (14.8)	4 (11.8)	28 (51.9)	19 (55.9)	10 (18.5)	8 (23.5)	54	34
年 平 均	1.3	0.5	1.3	0.7	4.7	3.2	1.7	1.3	9.0	5.7
2 大学計	1.8		2.0		7.9		3.0		14.7	

Ⅲ 資料

表 4 7 : 岐阜連獣（岐阜大学）と山口連獣（鳥取大学）における修了者の進路別内訳

職域別

(単位:人)

職 域	大学名	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	合計
大学等 教育・研究職	岐阜大	1	3	7	0	2	2	15
	鳥取大	1	4	5	2	2	3	17
民間研究所等 研究職	岐阜大	3	3	0	3	1	1	11
	鳥取大	0	2	0	0	0	0	2
国公立研究所 研究職	岐阜大	2	1	1	0	1	0	5
	鳥取大	2	1	1	1	1	0	6
官公庁	岐阜大	0	0	1	1	0	0	2
	鳥取大	0	0	0	0	0	0	0
民間動物病院	岐阜大	1	1	1	0	1	1	5
	鳥取大	1	1	2	2	0	0	6
その他	岐阜大	0	2	3	1	2	8	16
	鳥取大	0	1	1	0	0	1	3
計	岐阜大	7	10	13	5	7	12	54
	鳥取大	4	9	9	5	3	4	34
2 大学計		11	19	22	10	10	16	88

表 4 8 : 岐阜連獣（岐阜大学）と山口連獣（鳥取大学）における修了者の進路別内訳

プログラム関連分野別

(単位:人)

スペシャリスト	大学名	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	合計
家畜衛生・ 公衆衛生	岐阜大	1	2	2	1	2	0	8
	鳥取大	1	0	0	1	1	0	3
One Health	岐阜大	2	3	2	0	0	1	8
	鳥取大	0	3	1	0	0	0	4
難病治療・ 創薬	岐阜大	3	4	7	3	3	8	28
	鳥取大	2	4	6	2	2	3	19
その他	岐阜大	1	1	2	1	2	3	10
	鳥取大	1	2	2	2	0	1	8
計	岐阜大	7	10	13	5	7	12	54
	鳥取大	4	9	9	5	3	4	34
2 大学計		11	19	22	10	10	16	88

表 49 : 岐阜連獣（岐阜大学）と山口連獣（鳥取大学）修了者の具体的な進路別内訳

プログラム関連分野別

スペシャリスト	家畜衛生・公衆衛生	One Health	難病治療・創薬	その他
岐阜大学	<p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道立衛生研究所 研究職員Ⅱ（感染症分野） <p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> 岐阜大学 学術研究補佐員 兵庫県森林動物研究センター 野生動物研究技術専門員 <p>【H25】</p> <ul style="list-style-type: none"> Kansas Univ. Medical Center、USA ポスドク 埼玉県庁 主任 <p>【H26】</p> <ul style="list-style-type: none"> 埼玉県庁 <p>【H27】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道大学大学院医学研究科社会医学講座衛生学分野 博士研究員（ポスドク） 岐阜大学 特別協力研究員 	<p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物衛生研究所（日本学術振興会） 特別研究員 財団法人 自然環境研究センター <p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> SUEZ CANAL 大学 研究職 NPO 法人 <p>EnVision 環境保全事務所 職員</p> <p>岐阜大学 研究補助</p> <p>【H25】</p> <ul style="list-style-type: none"> アメリカ国立衛生研究所 ポスドク 日本学術振興会特別研究員 PD（岐阜大学） <p>【H28】</p> <ul style="list-style-type: none"> 愛媛大学医学部 ポスドク 	<p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> 岐阜大学 postdoctoral fellow キリンググループオフィス キューピー株式会社 <p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小野薬品工業（株） 研究職（2名） University of Florida Reseach scholar （株）ボゾリサーチセンター <p>【H25】</p> <ul style="list-style-type: none"> バングラデシュ農業大学 准教授 連合創薬医療情報研究科 特任助教 Benisuef 大学 台湾大学ポスドク 岐阜大学学術研究補佐員 日本学術振興会特別研究員 PD（帯広畜産大学） 日本学術振興会特別研究員 PD（岐阜大学） <p>【H26】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小野薬品工業（株） 研究職 中外製薬（株） 研究職 日本たばこ産業（株） 研究職 <p>【H27】</p> <ul style="list-style-type: none"> 岐阜大学応用生物科学部 共同獣医学科 助教 名古屋医療センター リサーチレジデント 富山化学工業株式会社 <p>【H28】</p> <ul style="list-style-type: none"> 岐阜大学応用生物科学部 助教 ベニスヒ大学教員 Patuakhali Science and Technology University Assistant Professor 岐阜大学 研究員 塩野義製薬株式会社 Yale Cancer Center, Yale School of Medicine ポスドク （株）ボゾリサーチセンタ 	<p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> やすだ動物病院 <p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> ふくだ動物病院 <p>【H25】</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物病院 <p>【H27】</p> <ul style="list-style-type: none"> 木村獣医科病院 動物病院 岡崎南動物病院 <p>【H28】</p> <ul style="list-style-type: none"> 湯木どうぶつ病院 知多愛犬病院

			<p>一 御殿場研究所 病理部 研究員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜大学大学院連合獣医学研究科 特別協力研究員 	
鳥取大学	<p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香川県西讃保健福祉事務所衛生課 <p>【H26】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府農林水産技術センター畜産センター <p>【H27】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県東部福祉保健事務所 	<p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社エコジェノミクス ・国立環境研究所 ・鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター <p>【H25】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯広畜産大学原虫病研究センター 	<p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プトラ大学 (マレーシア) ・独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 <p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取大学農学部共同獣医学科 助教 ・Menoufyia 大学教員 (エジプト) ・日和産業中央研究所 ・名古屋大学特別研究員 (PD) <p>【H25】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揚州大学 ・鳥取大学農学部共同獣医学科 助教 ・チュラロンコン大学 ・LOS BAÑOS 大学教員 (フィリピン) ・Khartoum 大学教員 (スーダン) ・Academy of Sciences of the Czech Republic (チェコ) <p>【H26】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム国立農業大学 ・山口大学 <p>【H27】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道大学遺伝子病制御研究所 <p>【H28】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取大学農学部附属動物医療センター 特命助教 ・South Valley University ・University of Sadat City 	<p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーク動物医療センター <p>【H24】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保永犬猫専門病院 <p>【H25】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有田総合動物病院 ・小野山病院 <p>【H26】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うえおか動物病院 ・やまうえ動物病院

表 50 : 社会人アンケート回答の自由記述

(岐 : 岐阜大学、鳥 : 鳥取大学)

項目別	主な自由記述
スペシャリスト の養成が必要な 分野 (設問 5)	岐 : one health。 岐 : ライフサイエンス (バイオメディカル分野)、実験動物学、野生動物学。 岐 : 実験動物。 岐 : 野生動物。 岐 : 歯科・眼科等の専門研究 (臨床)。 岐 : エキゾチックアニマル臨床。 岐 : 経営・販売戦略も指導できるコンサルティング獣医 (畜産)。 岐 : 医学との連携分野。 岐 : 生命倫理学。 鳥 : One Health。 鳥 : 創薬。 鳥 : 薬理学。 鳥 : 実験動物医学。 鳥 : 野生動物関連。 鳥 : 心療内科 (犬、ネコの心因性疾患、行動療法および施設)。 鳥 : エキゾチック臨床。 鳥 : 産業動物疾病予防獣医学。 鳥 : 畜産経営。 鳥 : 獣医史学。 鳥 : どの分野であっても、基礎は最も重要と考えております。
充実・強化が必 要な教育分野 (設問 7)	岐 : One Health specialist、難治治療。 岐 : one health。 岐 : 実験動物学。 岐 : 実験動物学、野生動物学等の新分野。 岐 : 野生動物、マーケティング。 岐 : ペットロスカウンセリング。 岐 : 獣医学でも専門医制度を大学院などで充実させてほしい。 岐 : 生命倫理学。

項目別	主な自由記述
	<p>岐：総合的な底上げ。</p> <p>鳥：創薬。</p> <p>鳥：再生医療。</p> <p>鳥：実験動物医学。</p> <p>鳥：野生動物対応。</p> <p>鳥：産業動物疾病予防獣医学。</p> <p>鳥：異分野、周辺領域との交流、学際的展開。ガラパゴス化に満足しない視野を持つ人材育成。</p> <p>鳥：全てにおいて即戦力をつける教育。</p>
<p>獣医学の大学院 （博士課程）への 進学について （設問 1 1）</p>	<p>岐：パーマネントの受け皿が選べるほどあるなら進学したい。</p> <p>岐：自分が博士号を取得することはないが、仕事上の課題を大学と共同研究することは必要と思われる。</p> <p>鳥：大学院に進学したが取れなかったのもう一度鳥取大学大学院に進学したい。</p> <p>鳥：学位自体が重要とは思わない。その人のモチベーションになれば良いと思う。</p>

アンケート調査票（3種）

【学部在學生】

岐阜大学大学院・鳥取大学大学院共同獣医学研究科の設置に関するアンケート

【学部在學生】

該当する番号の ○印にマークしてください。

■学年と所属大学を選んでください。

- | | | | |
|------|---------|---------|--------|
| 学 年 | 1) 1年生 | 2) 2年生 | 3) 3年生 |
| | 4) 4年生 | 5) 5年生 | 6) 6年生 |
| 所属大学 | 7) 岐阜大学 | 8) 鳥取大学 | |

1. 入学前にどのような職種を希望していましたか？（複数回答可）

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1) 民間企業（製薬会社等） | 2) 伴侶動物臨床（イヌ・ネコの診療等） |
| 3) 公務員（県庁や農林水産省等） | 4) 産業動物臨床（ウシ・ブタの診療等） |
| 5) 進学（大学院、留学） | 6) その他（ ） |

2. 現在は、どのような進路を目指していますか？（複数回答可）

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1) 民間企業（製薬会社等） | 2) 伴侶動物臨床（イヌ・ネコの診療等） |
| 3) 公務員（県庁や農林水産省等） | 4) 産業動物臨床（ウシ・ブタの診療等） |
| 5) 進学（大学院、留学） | 6) その他（ ） |

3. 大学院でスペシャリストを養成する場合、特にどの分野のスペシャリストが必要だと考えますか？（複数回答可）

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1) 基礎獣医学 | 2) 病態獣医学（微生物学、病理学等） |
| 3) 応用獣医学（家畜衛生学、公衆衛生学、人獣共通感染症学等） | |
| 4) 臨床獣医学（伴侶動物） | 5) 臨床獣医学（産業動物） |
| 6) その他（ ） | |

4. 獣医学における大学院教育（博士課程）の社会的需要は、今後増えると思いますか？

- | | | | |
|--------|----------|-------|----------|
| 1) 増える | 2) 変わらない | 3) 減る | 4) 分からない |
|--------|----------|-------|----------|

5. 獣医学の大学院教育（博士課程）は今以上の充実が必要と思いますか？

- 1) 必要である 2) 必要ではない 3) 分からない

5-1. 上記で「必要である」と回答した場合、どの教育分野の充実が必要と
思いますか？（複数回答可）

- 1) 基礎獣医学 2) 病態獣医学（微生物学、病理学等）
3) 応用獣医学（家畜衛生学、公衆衛生学、人獣共通感染症学等）
4) 臨床獣医学（伴侶動物） 5) 臨床獣医学（産業動物）
6) その他（ ）

6. 大学院（博士課程）への進学についてどのように考えていますか？

- 1) 進学したい 2) 就職後、必要を感じたら進学したい
3) 進学したいが、実際には困難 4) 進学を希望しない
5) 分からない 6) その他（ ）

6-1. 上記で「1) 進学したい」「2) 就職後、必要を感じたら進学したい」と
回答した場合、どの大学への進学を希望しますか？

- 1) 岐阜大学の大学院（獣医学研究科）を希望する
2) 鳥取大学の大学院（獣医学研究科）を希望する
3) 国内の他大学の獣医系大学院を希望する
4) その他（ ）

6-2. 上記で「3) 進学したいが、実際には困難」「4) 進学を希望しない」と
回答した場合、その理由は何ですか？（複数回答可）

- 1) 経済的な問題 2) 就職 3) 生活の問題（結婚や家族の意見等）
4) 修学期間の長さ 5) 年齢 6) その他（ ）

7. どのような大学院なら無理をしてでも進学したいと思いますか？（複数回答可）

- 1) 修了後スペシャリストとして社会で活躍できる教育が受けられる
2) 研究者としての基礎が構築できる 3) 高度な技術や知識が得られる
4) 世界レベルの最先端研究ができる 5) 論理的思考基盤が得られる
6) その他（ ）

回答ありがとうございました。

【大学院生】

岐阜大学大学院・鳥取大学大学院共同獣医学研究科の設置に関するアンケート
Questionnaire survey about The Joint Graduate School of Veterinary Science,
Gifu and Tottori University

【大学院在學生】

該当する番号の ○ 印にマークしてください。(Please mark a number in the following questions.)

■ あなたの所属研究科を選んでください。(You are a doctoral course student of ...)

- 1) 岐阜大学連合獣医学研究科 (G : The United Graduate School of Veterinary Science, Gifu University)
- 2) 山口大学連合獣医学研究科 (Y : The United Graduate School of Veterinary Science, Yamaguchi University)

■ あなたは日本人ですか、それとも外国人留学生ですか？ (You are ...)

- 3) 日本人 (J: Japanese student)
- 4) 外国人留学生 (F: Foreign student)

■ あなたはどの分野に所属していますか？ (What is your course?)

- 5) 基礎獣医学 (B : Basic Veterinary Science)
- 6) 病態獣医学 (P1 : Pathological Veterinary Science)
- 7) 病態獣医学 (A : Applied Veterinary Science)
- 8) 病態・予防獣医学 (P2 : Pathological and Preventive Veterinary Science)
- 9) 臨床獣医学 (C : Clinical Veterinary Science)

Q1. 獣医学研究科の質の向上を実践するにはどのような方法が望ましいと思いますか？ (複数回答可) (What should be improved for advance of Doctorial course in Japan? - multiple answers allowed -)

- 1) 授業カリキュラムの充実 (Curriculum design)
- 2) 教員の質の向上 (Quality of academic staff)
- 3) 研究設備の充実 (Research facility)
- 4) その他 Others () ※ 回答用紙の自由記載欄に記入してください。(When you select "Others", please answer in a free description field.)

Q2. 大学院にどのようなカリキュラムを望みますか？ (複数回答可) (What curriculum need to be made in the graduate school of veterinary science? - multiple answers allowed -)

- 1) 専門分野を深化させるカリキュラム (Curriculum intensifying specialism)
- 2) 専門外の分野を学ぶカリキュラム (Curriculum learning unprofessional area)
- 3) プレゼンテーションや論文の書き方等、研究に役立つカリキュラム

(Curriculum being useful for research activity, e.g., presentation, writing skill)

4) 論理的な考え方を強化するカリキュラム(Curriculum enhancing logical thinking)

5) 研究時間が欲しいので余計なカリキュラムは不要
(No extra curriculum necessary to keep time for research)

Q3. 現在の連合大学院で十分な研究力が養成されると思いますか？ (How well do you feel your research capability is developed in the United Graduate School of Veterinary Science?)

1) 強く思う (Quite well) 2) どちらかと言えば思う (Rather well)

3) どちらとも言えない (わからない) (I can say neither)

4) どちらかと言えば思わない (Rather not well)

5) 全く思わない (Not well at all)

Q4. 連合大学院において、所属大学と他の構成大学の教員に指導姿勢の違いがあると思いますか？ (Do you think manner of instruction and supervision in your University is different with that in other member university of the United Graduate School of Veterinary Science?)

1) 強く思う (Strongly Yes) 2) どちらかと言えば思う (Rather Yes)

3) どちらとも言えない (わからない) (I can say neither)

4) どちらかと言えば思わない (Rather No) 5) 全く思わない (Strongly No)

Q5. 連合大学院において、指導教員以外のアドバイスは得られていると思いますか？ (Do you think you can get good advice from staff other than your supervisor?)

1) 強く思う (Strongly Yes) 2) どちらかと言えば思う (Rather Yes)

3) どちらとも言えない (わからない) (I can say neither)

4) どちらかと言えば思わない (Rather No) 5) 全く思わない (Strongly No)

Q6. 共同獣医学科の教員が大学院を担当することにメリットがあると思いますか？ (Do you think foundation of new Graduate School of Veterinary Science, all professors of which belong to the same undergraduate school of Veterinary medicine, is beneficial?)

1) 強く思う (Strongly Yes) 2) どちらかと言えば思う (Rather Yes)

3) どちらとも言えない (わからない) (I can say neither)

4) どちらかと言えば思わない (Rather No) 5) 全く思わない (Strongly No)

回答ありがとうございました。 Thank you for answer to questionnaire

【社会人】

岐阜大学大学院・鳥取大学大学院共同獣医学研究科設置に関するアンケート

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は、大学教育にご助言とご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび岐阜大学と鳥取大学は、新たな共同獣医学研究科設立に向けて準備を進めております。現在、国立大学法人を中心に獣医学研究科の再編が進んでおり、鹿児島大学と山口大学、東京農工大学と岩手大学など、共同学部あるいは共同学科を構成している大学間で、平成30年度より独立した新しい研究科が設立されることになっております。これに伴い、これまで20年余に渡って獣医学博士を輩出してきた東の岐阜大学連合獣医学研究科（構成大学：帯広畜産大学、岩手大学、東京農工大学、岐阜大学）と西の山口大学連合獣医学研究科（構成大学：鳥取大学、山口大学、鹿児島大学）は発展的に解消することになります。岐阜大学と鳥取大学は、平成25年度に共同獣医学科を設置し、学部教育の強化に努めて参りました。現在構想している共同獣医学研究科は、共同獣医学科の1期生が卒業する時期に合わせて、平成31年4月に設立しようとしているものであります。

共同獣医学研究科では、基幹校を設置しない点で従来の連合大学院と異なっており、岐阜大学大学院あるいは鳥取大学大学院に進学した大学院生に対して共同のプログラムを実施し、それぞれの大学名で学位を授与します。岐阜大学大学院・鳥取大学大学院共同獣医学研究科では、従来の研究者を養成する目的に加えて、獣医学のスペシャリストを育成し、専門性の高い知識と技術、実践力を有する人材を輩出することを目指しております。家畜衛生・公衆衛生スペシャリスト、「One Health」スペシャリスト、難病治療・創薬スペシャリストを養成するためのプログラムを設定することが大きな特色であります。「設置構想概要」と「養成する人材とその必要性」についてまとめた資料を添付いたしますので、ご参照願います。

岐阜大学大学院・鳥取大学大学院共同獣医学研究科は、まだ構想段階にあります。この研究科における教育研究内容等を充実させるとともに、より社会のニーズに合った大学院を設立することを目的として、アンケート調査を実施することとなりました。このアンケートは、地方自治体、獣医師会、獣医学科同窓会へ配付させていただいております。ご多忙のところ恐れ入りますが、同封のアンケート用紙に記入後、同封の封筒にて9月30日までにご返送下さいますようお願い申し上げます。なお、アンケートで得られた情報は、新研究科設立のための基礎データとしてのみ使用いたします。

問合せ先

岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科 教授 海野年弘

Tel & Fax : 058-293-2941 E-mail: tunno@gifu-u.ac.jp

鳥取大学農学部共同獣医係 三浦

Tel & Fax : 0857-31-5365 E-mail: ag-kyoudou.j@adm.tottori-u.ac.jp

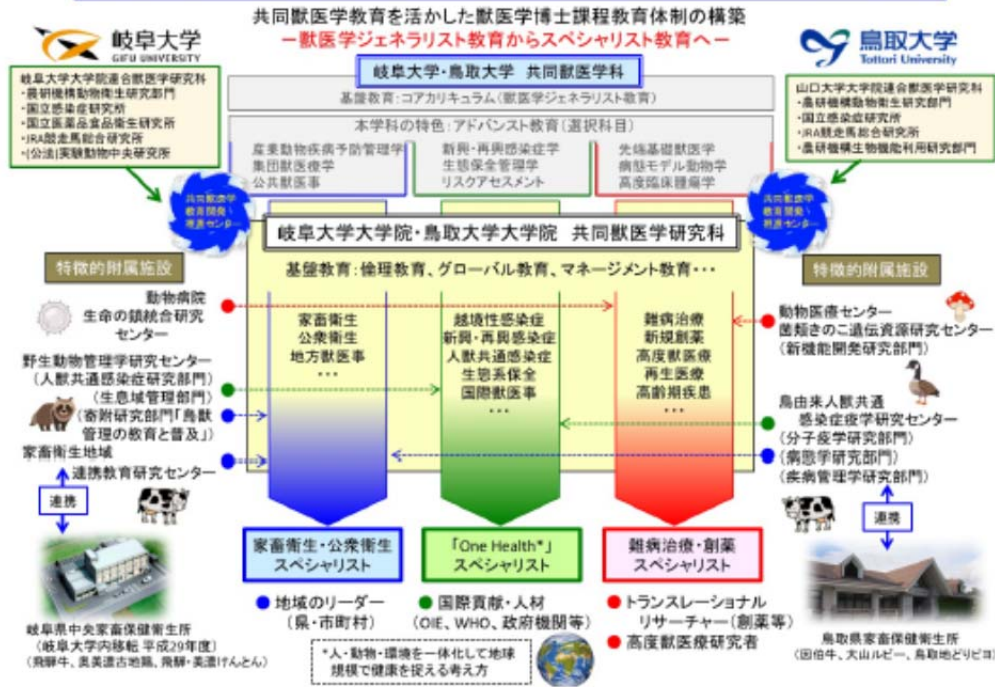
書類送付先

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学応用生物科学部連合大学院事務室 宛

〒680-8553 鳥取市湖山町南4-101 鳥取大学農学部共同獣医係 宛

平成31年4月設立予定

岐阜大学大学院・鳥取大学大学院 共同獣医学研究科設置構想概要



新研究科により養成する人材とその必要性

社会的背景

獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議(平成26年6月)
 日本学術会議提言「わが国の獣医学教育の現状と国際通用性」(平成29年3月)

- 地方における感染事例や食の安全にかかわる問題に獣医学専門家が対応すべき
 有事に対応できるリスクアナリシス能力、リスクマネジメント能力、リスクコミュニケーション能力を備えた人材が求められている。
 ⇒ 家畜衛生・公衆衛生分野に関わるスペシャリストの養成が必要
- ボーダーレス化する国際社会において、越境性感染症(口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ)、新興・再興感染症(エボラ出血熱、ジカ熱、デング熱、SARS、MERS等)の発生に獣医学専門家が対応すべき
 感染性疾患の診断技術、疾病発生時の動物・人の移動制限、国内及び国際防疫、リスクマネジメント等に関する専門的知識およびリーダーシップとコミュニケーション能力を備えた人材が求められている。
 ⇒ One Healthの視点でリスク対応できるスペシャリストの養成が必要
- 臨床獣医療の高度化を推進しライフサイエンス研究へ貢献すべき
 獣医療の高度化を推進し、高度診療拠点機能を通じて難治性疾患治療に関わることができ、リーダーとして地域社会へ貢献できる人材および分子・細胞レベルから生体まるごとを扱う中で身につけた生命現象を総合的に把握する力をベースに、分野を超えて問題を探求、解決できる人材が求められている。
 ⇒ がん等難病治療に対応できるスペシャリストと異分野を橋渡しするトランスレーショナルリサーチャーの養成が必要

家畜衛生・公衆衛生
 スペシャリスト

- 地域のリーダー (県・市町村)
- 就職先:
 ● 国、地方自治体の職員
 ● 国、地方自治体の研究機関
 ● 畜産関連産業
 ● 応用獣医学研究者

「One Health」
 スペシャリスト

- 国際貢献・人材 (OIE、WHO、政府機関等)
- 就職先:
 ● 国際機関、国際協力機構
 ● 国、地方自治体の研究機関
 ● 国、地方自治体の医療機関
 ● 応用獣医学研究者

動物治療・創薬
 スペシャリスト

- トランスレーショナルリサーチャー(創薬等)
- 高度獣医療研究者
- 就職先:
 ● 製薬・バイオ関連企業
 ● 高度医療専門臨床獣医師
 ● 基礎獣医学研究者
 ● 臨床獣医学研究者

岐阜大学大学院・鳥取大学大学院共同獣医学研究科の設置に関するアンケート

該当する番号に ○ をつけてください。

1. 卒業大学と年齢、獣医学の博士号の有無を選んでください。

- 卒業大学 1) 岐阜大学 2) 鳥取大学 3) それ以外
年齢 1) 20代 2) 30代 3) 40代 4) 50代 5) 60代以上
博士号の有無 1) あり 2) なし

2. 現在の職種等を選んでください。

- 1) 民間企業（獣医系） 2) 民間企業（獣医系以外）
3) 公務員（公衆衛生関係） 4) 公務員（畜産関係） 5) 公務員（その他）
6) 伴侶動物臨床 7) 産業動物臨床
8) 進学（獣医系大学院） 9) 進学（獣医系以外の大学院）
10) その他（ ）

3. 獣医学における大学院教育（博士課程）の社会的需要は、今後増えると思いますか？

- 1) 増える 2) 変わらない 3) 減る 4) わからない

4. あなたの職場に高い専門性と論理的思考力を持つ獣医学の博士号取得者がいると仮定した場合、組織のメリットとなると思いますか？

- 1) 強く思う 2) 思う 3) 思わない 4) わからない

5. 獣医学の大学院では、特にどの分野のスペシャリストの養成が必要だと思いますか？（複数回答可）

- 1) 基礎獣医学 2) 病態獣医学（獣医微生物学、病理学等）
3) 応用獣医学（動物衛生学、獣医公衆衛生学、人獣共通感染症学等）
4) 臨床獣医学（伴侶動物） 5) 臨床獣医学（産業動物）
6) その他（ ）

6. 獣医学の大学院教育は今以上の質の充実が必要だと思いますか？

- 1) 必要である 2) 必要ではない 3) わからない

7. 上記6で「必要である」と回答した場合、どの教育分野の充実・強化が必要だと思いますか？（複数回答可）

- 1) 基礎獣医学 2) 病態獣医学（獣医微生物学、病理学等）
3) 応用獣医学（動物衛生学、獣医公衆衛生学、人獣共通感染症学等）
4) 臨床獣医学（伴侶動物） 5) 臨床獣医学（産業動物）
6) その他（ ）

8. 研究だけを進めるのではなく、スペシャリストとして強化するプログラムを獣医学の大学院に設定することをどのように思いますか？

- 1) 大変良いことである 2) 良いことである 3) あまり意味がない
4) 全く意味がない 5) わからない

9. 社会人になっても就学できる獣医学の大学院は必要であると思いますか？

- 1) 必要である 2) 必要ではない 3) わからない

10. あなたの職場では、潜在的に獣医学博士の学位取得希望者はいると思いますか？

- 1) いる 2) いない 3) わからない

以下の質問は、獣医学の博士号を取得されていない方のみご回答ください。

1 1. 獣医学の大学院（博士課程）への進学についてどのように考えていますか？

- | | |
|------------------|------------------|
| 1) 岐阜大学大学院に進学したい | 2) 鳥取大学大学院に進学したい |
| 3) その他の大学院に進学したい | 4) 必要を感じたら進学したい |
| 5) 進学したいが、実際には困難 | 6) 進学を希望しない |
| 7) わからない | 8) その他 () |

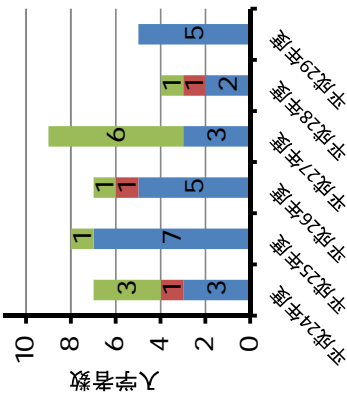
1 2. 上記 1 1 で「5) 進学したいが、実際には困難」「6) 進学を希望しない」と回答した場合、その理由は何でしょうか？（複数回答可）

- | | |
|---------------------|------------|
| 1) 経済的な問題 | 2) 職場の理解 |
| 3) 生活の問題（結婚や家族の意見等） | 4) 修学期間の長さ |
| 5) 年齢 | 6) 地理的要因 |

回答ありがとうございました。

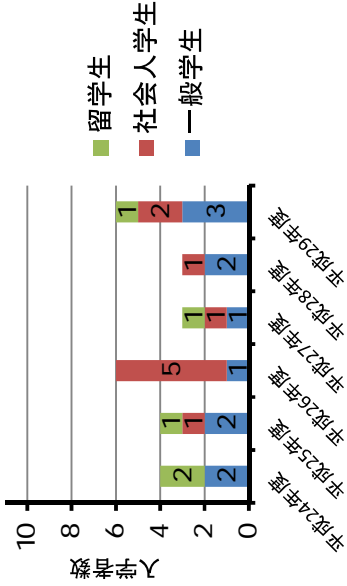
連合大学院における岐阜大学、鳥取大学配置入学生と修了者の動向 および新研究科における入学定員

連合大学院岐阜大学配置入学者の内訳



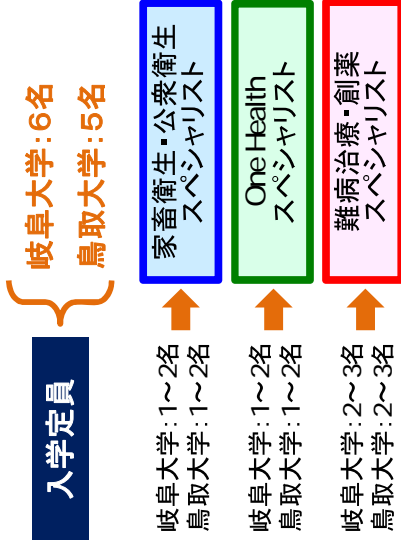
平均入学者数: 6.7人
 一般学生: 4.2人
 社会人学生: 0.5人
 留學生: 2.0人

連合大学院鳥取大学配置入学者の内訳

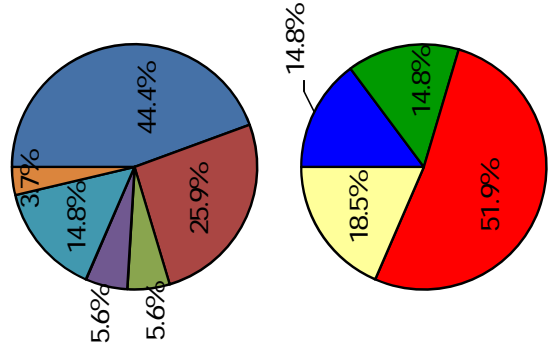


平均入学者数: 4.3人
 一般学生: 1.8人
 社会人学生: 1.7人
 留學生: 0.8人

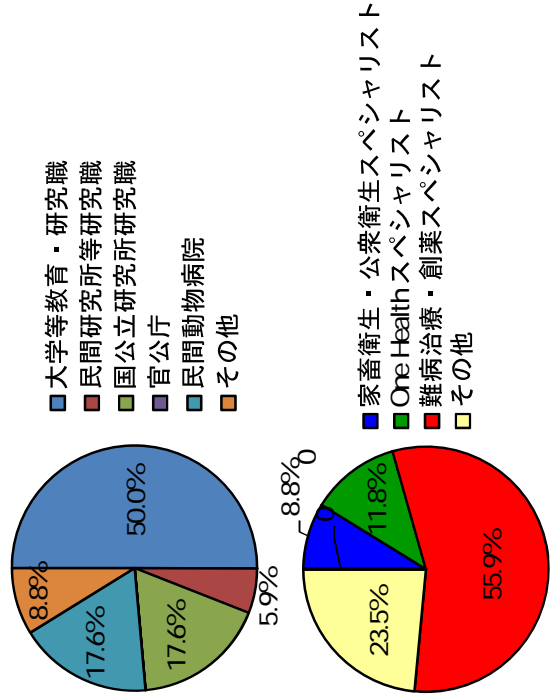
新研究科における入学定員および各教育プログラムの受講見込み



連合大学院岐阜大学修了者の就職先内訳 (過去6年間、54名)



連合大学院鳥取大学修了者の就職先内訳 (過去6年間、34名)



就職実績 (過去6年間)

- 北海道立衛生研究所
- 兵庫県森林動物研究センター
- 京都府農林水産技術センター 畜産センター
- 埼玉県庁
- 米国立衛生研究所
- 農研機構動物衛生研究所
- 国立環境研究所
- 財団法人自然環境研究センター
- 帯広畜産大学原虫病研究センター
- 名古屋医療センター
- 独立行政法人医薬品医療機器総合機構
- 塩野義製薬株式会社研究所
- ポゾリサーチセンター 研究所
- 富山化学工業株式会社研究所
- 小野薬品工業株式会社研究所
- 北海道大学遺伝子病制御研究所
- 日和産業中央研究所
- 中外製薬株式会社研究所

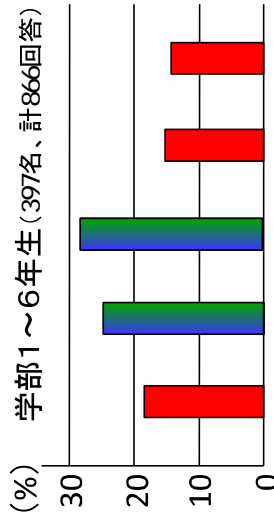
アンケート調査によるスペシャリスト養成の必要性和新規増加見込み および新研究科における入学定員

② アンケート調査結果：
スペシャリスト養成が必要な分野(複数回答)

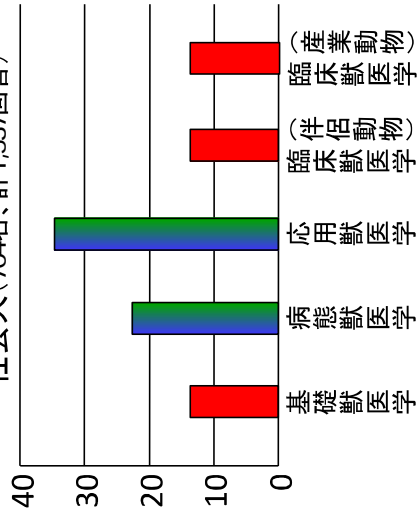
家畜衛生・公衆衛生
スペシャリスト

難病治療・創薬
スペシャリスト

One Health
スペシャリスト



社会人 (704名、計1,537回答)



研究分野・組織

入学定員および収容定員 (単位:人)		
大学名	入学定員	収容定員
岐阜大学	6	24
鳥取大学	5	20
計	11	44

学生確保の見通し

③ 共同獣医学研究科における入学定員

【連合大学院の入学実績】

岐阜連獣のうち岐阜大学を配置校とする入学者、および山口連獣のうち鳥取大学を配置校とする入学者の過去6年間の平均は、岐阜大学 6.7人、鳥取大学 4.3人であった。この数値に加えて、以下のとおり新規の入学者が見込まれる。

【アンケート調査等の分析からの新規増加見込み】

- ・日本人学生(社会人を除く母校からの進学者)は、岐阜大学 3.9人、鳥取大学 3.0人の増加
- ・社会人に対するアンケート調査で「入学したい」と回答のあった数から、岐阜大学では 1.1人の増加、鳥取大学では 0.8人の減少が見込まれる
- ・日本人学生と社会人を合わせ、岐阜大学 5.0人、鳥取大学 2.2人の新規増加が見込まれる。

【両連獣の実績に新規見込みを加算】

岐阜大学 11.7人 合計 18.2人
鳥取大学 6.5人

2大学で18.2人の入学志願者となり、岐阜大学6名、鳥取大学5名、合計11名の入学定員が必要(志願倍率1.65倍)。

① 連合大学院の入学実績

② アンケート調査による新規増加見込み

①+② 新規入学者見込み

区分		岐阜大学	鳥取大学	2大学計
岐阜連獣 山口連獣 実績 (6年間平均)	日本人学生 (社会人除く)	4.2	1.8	6.0
	留学生	2.0	0.8	2.8
	社会人学生	0.5	1.7	2.2
小計		6.7	4.3	11.0
新規増加見込み	日本人学生 (社会人除く)	3.9	3.0	6.9
	留学生	—	—	0
	社会人学生	1.1	-0.8	0.3
小計		5.0	2.2	7.2
連獣実績と 新規増加見込み	日本人学生 (社会人除く)	8.1	4.8	12.9
	留学生	2.0	0.8	2.8
	社会人学生	1.6	0.9	2.5
合計		11.7	6.5	18.2

社会人学生の新規増加見込み分は、岐阜大学あるいは鳥取大学の大学院に進学したい者が10年間で進学するものとして、それぞれ10で除じた値から各連獣の社会人入学者の実績値を差し引いて算出した。